
椅子取りゲーム

瑠姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

椅子取りゲーム

【NZコード】

NZ8831-N

【作者名】

一瑠姫

【あらすじ】

その夢を知ると死ぬ。そんな噂、聞いたことないですか？

「ねえ、椅子取りゲームの噂、知つてる?」

親友の莉愛りあがお昼休み、こんな話をし始めた。

飲んでいた紙パックの苺ミルクを机の上に置いた。

いつもぐだらない話しかしない莉愛の珍しく真剣な表情にビビったワケではない。

「椅子取りゲーム?」

「そり。椅子取りゲーム」

やたらと語尾を伸ばすクセのある彼女があつさつと返事をしたことにまず驚いた。そして顔色が悪いし声も若干震えている。

「莉愛、大丈夫……？」

「……うん。ていうか椅子取りゲームの話なんだけど……」

体調を心配した私の質問に曖昧に答え彼女は椅子取りゲームの話に戻る。

そこまでその話をしたい理由がわからなかつたけどとりあえず彼女の話を聞くことにした。

「椅子取りゲームをしている夢を見て、その夢の中で椅子取りゲームに負けると……」

彼女はすうっと息を吸つてその最後の一言を溜めた。

「夢の中に閉じ込められるんだって…」

は？

あまりにも単純でつまらなくて非現実的な話に耳を疑う。

「それがどうしたの？」

たずねても莉愛は黙つて俯くだけだった。

椅子取りゲームの夢を見て死ぬ？

「莉愛… それがなに？」

「この話を聞いた人は誰かに言わないところの夢を見るから… だか

5…」

え？

莉愛は誰かにこの話を聞いて、私に話した。

といふことは私がその夢を見るの…？

「うん、見るか見ないかは置いておいて

莉愛は自分が見るのが嫌で、だから

私に話したの？

「莉愛…私死ぬかもしれないんだよ」

「だから…誰かに話さなきゃあたしも死ぬかもだつたんだって…」

田をそらして壇つ莉愛。

謝りもせずに言い訳をする莉愛に無性に腹がたつた。

「最低…親友にそんなこと話すなんて」

莉愛は呆然します、といふような顔だった。

今にも泣き出しそうな莉愛の顔を睨みつくる。

2人の空間は緊迫した静寂に包まれた。

「まあ。莉愛もなにもこの二つでもなく、わざ見ていろ。

どやかれる」の場から離れるか……

そう思つたとおり、ついさくら時間田の開始を指さるチャイムが鳴つた。

それを伝図にまだ呆然としている莉愛を冷たく見下す。

梅ミルクがまだ少し入つてゐる紙パックを乱暴に机の上から取り

莉愛の席と離れている自分の席に戻つた。

席に戻り教科書を取り出すとともに担任が入つてくる。

授業が始まつても私の怒りは収まらないままだつた。

すると

「ねえ、機嫌悪いの？」

隣の席の鈴木君が声をかけてきた。

力チカチとならしていたシャーペンの手を止める。

いかにも人がいい人つて感じの人だった。

それなのに彼はオタクグループと呼ばれクラスから嫌われている
人といふ。

このお人好しで友達の少ない男にさつきの話をすれば……

脳裏に浮かぶ、ひとつの提案。

でも、それでは莉愛と一緒にだ。

自分が恐怖から逃れるために他人を売る、そんな卑怯者と一緒にだ。

そうはなりたくないかった。

「ううん。なんでもないよ」

鈴木君はその返事を聞いて「うう」とだけ返事して

つまらない授業を受けるためノートと教科書に目を移した。

朝作つておいた冷たい夕飯を食べ

お風呂に入り

宿題を済ませて

寝ようと自分の部屋に入る。

「莉愛の馬鹿…」

ポソリと口の中でつぶやいた。

夢を見ることが怖いのではなく話されたことに怒っていたわけでもなく

莉愛が私を死んでもいいと思っていることに恐怖を感じた。

一緒にいた人が自分のせいで死ぬかもしれない

莉愛は何も感じないの?

椅子の回転

（

）

気が付けばひとつの中古の椅子の周りに

私と一人の少女。

真っ白な部屋の中央に置かれたひとつの中古のパイプ椅子。

流れているのは…童謡？

なんで椅子の周りを回っているんだろう。

ああ、そうか

椅子取りゲームしてるんだ。

理解できた瞬間

流れていた音楽はピタリと止まつた。

「え…ツ」

パイプ椅子の背もたれ側にいた私は

その位置からはとてもじゃないが椅子に座る事などできなかつた。

「あなたの負け」

「莉愛……起きなれ……」

「ん…まだ6時じゃ…」

「あんたと同じクラスの仲良くしてた子…死んだんだって…」

「…え」

「朝母親が起しちゃつたら死んでたつて…」

莉愛は

あの子に話していくよかつた

めまいの思つた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8831z/>

椅子取りゲーム

2011年12月27日20時54分発行